

APPLE OS

# アップグレードガイド

macOS Mojave、iOS 12、tvOS 12 の準備に必要なもの





## Apple OS アップグレードが近づいています。準備は整っていますか？

macOS (Mac 用)、iOS (iPhone と iPad 用)、tvOS (Apple TV 用) の新バージョンが間もなく登場します。作業は至ってシンプルです。ワークフローと生産性に支障をきたすことなく、これらの機能を完璧に導入しましょう。

ほとんどの IT 組織の皆様はご存知でしょうが、この導入作業は多くの場合、言うのは簡単ですが実際にやるとなると難しいものです。特に、Apple ユーザーがアップグレードを希望するスピードを考えるとなおさらです。ここで耳寄りな情報があります。Jamf はこの業務に 16 年以上携わっており、今回、Apple アップグレードを成功させる手順ガイドンスをご用意しました。初めて OS シーズンを迎える方にも、5回目や 16 回目の方にもご利用いただけます。

# Apple アップグレードが他とは異なる理由



他のエコシステムに反して、Apple のオペレーティングシステム、macOS、iOS、tvOSの主要な新バージョンは毎年リリースされます。シンプルなアップグレード手順とコストゼロを同時に実現することで、消費者への普及率の激増に貢献します。

この傾向は、Apple のハードウェアとソフトウェアの垂直統合によってさらに加速します。新しい Mac、iPad、iPhone、Apple TV、Apple Watch は常に最新の OS バージョンを備えた状態で出荷され、ダウングレードはできません。このことはWindows の明確な対比で説明していますが、Windows 7 は現在でも、新しい Windows 10 リリースよりも高い人気を誇っています。Android についても同じことが言えます。Android の最新バージョンを導入しているのはごく一部のデバイスのみです。

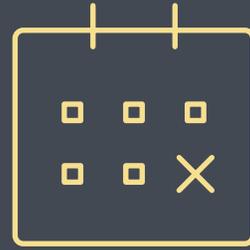
このレベルのフラグメンテーションは、セキュリティ関連組織にとっては課題であり、多様なデバイスと OS プラットフォームに対応しようとする、一貫性のある保護されたデバイス体験の提供がほぼ不可能になります。大半の Windows デバイスと Android デバイスが最新版ではないことが多いため、これらがセキュ

リティ違反を犯すリスクが非常に高くなっています。

Apple のユーザー主導のアップグレードでは、ライセンス取得の複雑さを取り除くことで、エンドユーザーが自立して簡単に取得を実行できるようにします。これこそが、Apple のオペレーティングシステムがあらゆるエコシステムの最高の導入率を誇る理由の一つです。

エンドユーザーは新しい機能にアクセスできるようになります。ただし、セキュリティ管理と精度の高いセキュリティインベントリを常に維持することは今後もエンドユーザーの責任です。

本ガイドにより、新しいオペレーティングシステムの詳細、慎重にアップグレードの準備を進める方法、アップグレードの実装方法をしっかりと理解できます。混乱を最小限に抑えて不測のダウンタイムを排除する方法を学習でき、組織的価値を創出するための知識を獲得でき、macOS Mojave、iOS 12、tvOS 12 のアップグレードの詳しい手順を理解することができます。



# 即日アップグレードの事例

組織がアップグレードを採用すべき主な理由は次の 4 つです。アップグレードにより、新しいオペレーティングシステムのリリース当日に、エンドユーザーがデバイスのアップグレードを自分で実行できるようにします。

## 1 セキュリティ上の脆弱性が低下する

古いバージョンのソフトウェアは、必ずセキュリティ性能が低くなります。オペレーティングシステムを最新版にアップグレードする権限をユーザーに与え、アップグレードを奨励することが最優先事項です。このアップグレードを利用することで、組織は、デバイスが古くなったために発生するデータ漏洩やシステムの脆弱化の犠牲になるのを確実に防げます。

## 2 エンドユーザーを満足させる

ソフトウェアを最新に保つために Apple がユーザーを鍛えます。Apple は次に、新しいオペレーティングシステムが入手可能になった日に自分のデバイスをうまくアップデートできるようにすることをユーザーに期待します。即日アップグレードはこの期待を

確実に満たすことができます。

## 3 ユーザーの生産性が維持される

最新のオペレーティングシステムには、より高い効率性と生産性に対応した新機能が搭載されています。即日アップデートが奨励されない場合、ユーザーは、新しいアプリをさらに簡単に見つけられる新デザインの Mac App Store や、iOS 12 でユーザーをすばやく誘導できる Siri ショートカットなどといった有効な機能を利用できなくなります。

## 4 新しい IT 管理機能にアクセスできる

新しい豊富な管理機能へのアクセス権を獲得しましょう。新しい Apple エコシステム管理機能にアクセスできるようになるだけでなく、環境固有のニーズに基づいた新しいエンドユーザー機能をカスタマイズして設定することもできます。

# ベータパーテ ィへの参加

1  
STEP

Apple ベータソフトウェアプログラムに参加すると、既存のアプリケーションとの互換性の確認、OS の新機能のテスト、アップグレード前にそれが組織のニーズを満たすものであることの確認ができます。結局、最も好ましくないのは、アップグレード中のダウンタイムと互換性に関する問題です。

Apple はオペレーティングシステムを定期的にアップデートしていますが、ベータプログラムに参加すれば、オペレーティングシステムのリリースの数か月前から試験を実施できます。

Apple は、開発者向け(有料)と一般利用者向け(無料)の、macOS / iOS / tvOS のベータプログラムを提供しています。有料開発者アカウントは通常で年額 100 ドルかかりますが、リリースノートなどの追加リソースにアクセスできます。Apple はさらに、法人顧客と教育関係顧客向けに、IT用 AppleSeed プログラムを、招待を受けた方に限定して無償で提供しています。

## ベータを選ぶべき理由

**1** これらのオペレーティングシステムのベータサイクルは通常、複数のフェーズで発生します。早期にご参加いただき Apple にフィードバックをご提供いただきますと、皆様に影響が及ぶ

機能と問題が対処される可能性が高まります。バグレポートを Apple に最初に送信していただいた方に対しては、チケットのステータスが表示されます。それ以外の場合は重複するバグが解消されることとなり、Apple による対応の進捗をお知らせすることはありません。

**2** ベータに参加すると、新しい機能や互換性を試験するために早期にアクセス権を得られるだけでなく、エンドユーザー体験がどのようにして影響を受けるのかをしっかりと理解することができます。追加された新設定、削除された機能、ラベルの変更を知れば、トレーニング教材や新人研修資料などに加える必要がある更新情報が分かります。これにより、組織がエンドユーザー体験の変更に十分に備えることができるので、それに応じてさらにユーザーを重視したサポートモデルと通信プランを実行できます。

**3** 最後に、現在販売されているソフトウェア製品がお客様の環境で継続できるようにするには、OS の新しい設定と機能、アプリケーション、インフラストラクチャに加え、管理互換性試験が必要不可欠です。IT 管理者が Apple のベータを実行し、導入したアプリの問題について試験を実施することが推奨されます。問題を発見した場合は関連ベンダーに報告し、そのアプリが Apple の正式リリース時に確実に機能するようにします。

# ベータパーテ イへの参加

## ベータのヒント

専用ハードウェアを使用して、Mac、iPad、iPhone、Apple TV デバイスのリリース前試験を実施します。これまで通り、個人やビジネスに不可欠なハードウェアをベータ試験に使用しないようにしてください。

Apple のベータで組織のビジネスツールを試験することが重要であり、デバイス管理ソリューションもテストする必要があります。組織が Mac、iPad、iPhone、Apple TV デバイスの管

理と保安にどのソリューションを使用するにしても、そのソリューションにより有効なベータプログラムが一年中提供され、Apple のベータソフトウェアの互換性をすべてのデバイスで試験できる能力が発揮されるべきです。

詳細については Apple の [iOS ライフサイクル管理に関するホワイトペーパー](#) をご覧ください。



## アップグレードの話

タッチバーを搭載した MacBook Pro で macOS に Touch ID が始めて導入されたとき、世界中の組織がこの新しい認証方の影響を受けました。なぜでしょう？この新しい認証方をどう分類すべきかについて組織が協議しなかったためです。エンドユーザーはどのような影響を受けるでしょうか？この認証方はセキュリティポリシー内でどのように機能するのでしょうか？

組織は、Apple のベータに参加して Apple にフィードバックを送信すれば、アップグレードの数か月前にこの件について協議することができます。さらに、新技術を分類して活用するためのセキュリティポリシーをうまく導入することもできるので、ユーザーを曖昧な状況に置き去りにすることもありません。

1  
STEP

# 戦略的試験 の実施

STEP

計画に役立てるために、試験を次の3つに分類します。

## 1 インフラストラクチャ

VPN やプリンタドライバの試験など、アプリケーション外のもの（常に新しいオペレーティングシステムで試験する必要があるもの）が含まれます。インフラストラクチャの試験は、クラウドホスティングとクラウドサービスに移行する組織にとって大した心配事ではありません。

## 2 アプリケーション

ウェブベースと非ウェブベースのアプリケーションが両方とも含まれます。すべてのアプリを試験する時間がない場合は、互換性に関するアプリケーションベンダーの意見に基づいて優先順位を決定してください。ベンダーがウェブサイト、文書、直接連絡を利用して、想定される互換性を積極的に奨励していない場合は、アプリを各自で検証するとよいでしょう。

## 3 管理

デバイスの導入と管理のソリューションが含まれます（MDM、EMM、UEM など）。お使いのデバイス管理ソリューションが、新しい制限と管理能力と管理機能を試験できる能力を備えているかを確認します。例えば、登録処理の無駄をなくすために、macOS Mojave のセットアップアシスタント内の新しいステップを省略できます。ただしそれは、Apple 管理ソリューションに対応している場合に限られます。

i

## インフラ投資

Apple は Cisco などの企業と提携することでインフラ統合を順調に進めているため、アップグレードシーズンはインフラ投資を評価する理想的な機会となります。まだ決めかねているのであれば、Apple の他の統合策に対してテクノロジーを1つ選択する場合に優れた動機要因があります。例えば、Cisco と Apple の提携により、iOS と macOS に向けにファストレーンを備えた固有のエンタープライズソリューションが生まれました。

優先順位の決定は、特にリソースの乏しい組織において必須です。組織で使用されているすべてのアプリケーションをリストアップし、ビジネス上重要な特性ごとにランク付けします(財務ソフトウェア、CRM ソフトウェア、ERP ソフトウェアなど)。高レベルのビジネスアプリから開始し、中レベルアプリ、ブラウザ、低レベルアプリの順に実施します。

多くの組織が、デバイス管理プロバイダが提供する自動インベントリ情報と、使用頻度(高頻度～低頻度)に基づいて優先順位を決定しています。

ただし、ハードウェアとソフトウェアのインベントリ情報を自由に自動化できたとしても、人的交流に勝るものではありません。必ず、組織の主な職能ビジネスユニットを明確にして聞き取り調査を行ってください。

サポートしている各部門(財務部、マーケティング

部、営業部、技術部、人事部など)からエンドユーザー対応担当者を採用することを検討し、彼らの日常的なビジネスプロセスについて話し合います。ワークフローと最も頻繁に使用するツールについて一通り説明させます。その後、試験用に各項目を記載したスプレッドシートを作成します。

iOS アプリと tvOS アプリのアーキテクチャを考慮すると、これらのプラットフォームには軽い試験の方が適切かもしれません。Selenium、TestPlant、Sikuli などの自動試験ツールの利用を検討します。これらのツールは、ポイント&クリック式のタスクを自動化してタスクを実行し試験するものです。試験フレームワークに関する詳細については、ITIL 認定を確認してください。

# ユーザー重視の試験プロセスの組み込み

STEP 2

使用事例を文書化する際には、主要ビジネスユニット、必須レベル、アプリケーション、ユーザータスク、互換性検証の実施/未実施を明記してください。例：

ビジネスユニット	必須	アプリ	ユーザータスク	オペレーティングシステム	検証
マーケティング	中レベル	Word	「アップグレードしたばかりのコンピュータ上で Word 文書を作成し、カッパープレート書体を選び、プリンタで印刷したい。」	macOS Mojave	あり

# 新しいオペレーティングシステムの理解

3  
STEP



上記の試験ガイダンスに加え、macOS Mojave、iOS 12、tvOS 12 はさまざまな新機能を備えており、環境に独自のインパクトを与えます。

ここからは、各オペレーティングシステムへのアップグレード時に知っておくべき重要情報を説明します。総合リストについては、Apple のオンラインリソース(サポートサイトの記事など)をご確認ください。

## macOS Mojave へのアップグレード

Mac でアップグレードを完遂する方法はいくつかあります。macOS 向けの最も一般的なアップグレードパスは、インプレースアップグレードです。インプレースアップグレードでは、ユーザーデータを損なうことなくオペレーティングシステムをインストールします。

インプレースアップグレードを実施するための1つの方法として、Apple Business Manager または Apple School Manager (公式にはデバイス登録プログラムまたは DEP として知られる) に登録されている Mac に MDM コマンドを送信する方法があります。iOS と同様に、この MDM コマンドによって、Mac デバイスが Apple から新しい OS をダウンロードし、それをデバイスに自動でインストールします。ただしこの方法は、Apple Business Manager、Apple School Manager、または DEP に登録されている Mac デバイスでしか

利用できません。

Apple Business Manager か Apple School Manager に登録されていない Mac デバイスについては、Jamf のお客様であれば、通常は macOS インストーラをユーザー向けに事前にパッケージ化しておくことで、インプレースアップグレードを完遂できます。次に macOS インストーラは、IT 担当者によって自動でインストールされるか、またはエンドユーザーによって Jamf Self Service (エンタープライズアプリカタログ) 経由で開始されます。ネットワークバンド幅を節約してユーザー生産性を最大限に引き出すために、アップグレード対象のシステムのキャッシュに macOS インストーラをあらかじめ格納しておくことができます。アップデートと同時に、追加のソフトウェアアップデートと設定変更を実行しておけば、移行がスムーズになります。

ではイメージングについてはどうでしょうか？イメージングは、さまざまな導入状況で使用される一連のテクノロジーで、本来の Apple テクノロジーに置き換わるものです。Mac 導入の管理に関して、長期的なイメージングオプションの関連性は徐々に希薄になっていくことでしょう。システムイメージにはファームウェアアップデートなどのモデル専用情報が含まれていない可能性があるため、Apple はモノリシックシステムイメージの推奨やサポートは行っていません。詳細については、Apple サポートサイトの[こちらの記事](#)をご覧ください。



macOS のアップデート時にはインターネットに接続しておく必要もあります。これは Apple により Mac にインストールされるファームウェアアップデートのために、このアップデートによってデバイスのセキュリティがさらに強化されます。これらのファームウェアアップデートをダウンロードしてインストールできるのは macOS インストーラのみであり、インストーラでは Apple は重要なファームウェアのソースとして認証されません。つまり、ターゲットディスクモードにより接続されている Mac に macOS Mojave をインストールする方法は、サポートされたインストール方法ではなくなったのです。

システムイメージユーティリティを利用して NetInstall イメージを作成できるのは、サポートされている macOS Mojave 向けイメージングアップグレードワークフローに限られます。これは、より多くの人手を必要とするプロセスになる可能性があります。Apple はこの方法をサポートしています。このため NetInstall は Apple T2 チップを搭載している Mac デバイスでは機能しないので、NetInstall を超えた別の方法を検討する必要があります。

ハードドライブの情報を消去する必要がある場合、macOS のインストールとハードドライブの消去を同時に実行するという選択肢がありません。Mac App Store から macOS Mojave イン

ストーラをダウンロードし、Apple 管理ソリューションでアップロードした上で、startosinstall コマンドを含む 新しい `--eraseinstall` フラグを使用するポリシーに従ってデプロイを実施します。これは、Apple File System に変換されているコンピューターでしか実行できません。

ここからは、macOS Mojave へのアップグレードの準備作業として検討すべきその他の分野について説明します。

### Apple File System (APFS)

APFS は Apple のファイルシステムで、macOS High Sierra に同梱されており、ソリッドステートドライブのみを対象としています。APFS は現在、macOS Mojave から開始するすべてのドライブを対象とした標準的なファイルシステムになっています。イメージングワークフローは、現在はサポートされていない可能性がありますので、環境内にあれば再検討してください。詳細については、APFS に関する Jamf のホワイトペーパーをご覧ください。



# 新しいオペレーティングシステムの理解



## お客様の声

「マシンを1つ1つ操作することなく Mac オペレーティングシステムアップグレードを導入できるというのは非常に大きな利点です。Jamf Self Service を利用すれば、エンドユーザーに権限を委ねられるので、エンドユーザーが自分の時間を使ってシステムアップグレードを開始できます。」

Omnicom Group エンドポイントサービスマネージャー  
Steve Wood 氏

# 新しいオペレーティングシステムの理解

7  
STEP



## macOS 向け Cisco QOS ファストレーン

macOS High Sierra では macOS 向け Cisco ファストレーン を採用しています。Cisco ファストレーン を利用すれば、ビジネスに必須のアプリのネットワークトラフィックを最適化できます。Cisco ネットワークを使用している組織は、ネットワーク上で優先する iOS アプリと Mac のアプリを定義することができます。最も重要な Mac アプリの一覧表を作成し、デバイス管理プロバイダが macOS 向け Cisco QOS ファストレーン の新機能をサポートしているかを確認してください。

## ソフトウェアアップデートの延期

IT 管理者は構成プロファイルを利用すると、Mac のソフトウェアアップデートを最大で 90 日間延期できます。ソフトウェアアップデートのタイムラインを確認し、エンドユーザーのためにソフトウェアアップデートを延長する必要があるかどうかを見極めてください。これにより IT 担当者は、新しい OS が一般消費者に提供されるようになったら、重要なアプリケーションの試験を実施できます。Apple のベータプログラムを活用すれば、エンドユーザーはその日のうちに最新かつ最高のソフトウェアにアクセスできるため、エンドユーザーのために延期する必要性を軽減することができます。

## ユーザー承認の MDM 登録

ユーザーのためにユーザー承認の登録が自動で作成されるため、IT 担当者は User-Approved Secure Kernel Extension Loading (ユーザー承認済みの安全なカーネル拡張ローディング) などのセキュリティに敏感な設定を遠隔操作で管理できます。Approved Kernel Extensions (承認済みカーネル拡張) などの新しいプロファイルでは、macOS 登録がユーザー承認済

みである必要があります。

## カーネル拡張子管理

Apple は macOS セキュリティを強化しており、macOS Mojave のインストール時またはその後カーネル拡張子をロードするという新しいユーザー同意要件があります。A) macOS Mojave へのアップグレード前に Mac を使用していなかった場合、または B) カーネル拡張子が以前に承認された拡張子を継承していない場合、エンドユーザーが実施する必要があるのは、使用している Mac のカーネル拡張子の承認のみです。既存のカーネル拡張子 (ウイルス対策ソフトウェアや仮想化ソフトウェアなどの拡張子) があれば再確認し、アップグレード前にそれらを適用してください。

## Exchange 向けの OAuth サポート

Apple は Microsoft Exchange 向けの OAuth サポートを追加しました。これにより Exchange アカウントに対する認証方法が新しくなります。IT 管理者は、ユーザーがメールアカウントを初めてセットアップする時にこの認証法を実行できるようになります。

## パスワード制限

AutoFill パスワードの制限、近接設定に基づくパスワード共有要求の阻止、AirDrop 経由でのパスワード共有の禁止が可能になります。

## プライバシープロトコル

重要なデータにアクセスするアプリのためのデータ保護強化策であり、Safari 使用時に広告主からの追跡を防止する新しい方法です。



## iOS 12 へのアップグレード

macOS アップグレードとは異なり、iOS アップグレードのワークフローは1つだけです。このアップグレードが Apple により入手可能になると、エンドユーザーがインストールします。ここからは、iOS 12 へのアップグレードの準備作業として検討すべきその他の分野について説明します。

### 管理ソフトウェアアップデート

組織は、ユーザーによるアップデートを最大で 90 日間延長でき、導入する iOS バージョンを指定することができます。

### セットアップアシスタントの手順

登録時にセットアップアシスタント画面を省略し、ユーザーがホーム画面にできるだけ早く戻れるようにします。iOS 12(およびmacOS Mojave)では、iMessage、FaceTime、Screen Time、Software Update の各設定アシスタントオプションを省略できます。

### Exchange 向けの OAuth サポート

Apple は Microsoft Exchange 向けの OAuth サポートを追加しました。これにより Exchange アカウントに対する認証方法が新しくなります。IT 管理者は、ユーザーがメールアカウントを初めてセットアップする時にこの認証方法を実行できるようになります。

### パスワード制限

AutoFill パスワードの制限、パスワード近接リクエストの阻止、AirDrop 経由でのパスワード共有の禁止が可能になります。

### 自動日時設定を強制

iOS デバイスで日時を自動で設定します。教育機関は、学生に各自のデバイス上で日時を変更させないようにすることが重要です。勝手に変更できる状態にしておくとも IT プロトコルをすり抜ける可能性があります。

# 新しいオペレーティングシステムの理解

7  
STEP



# 新しいオペレーティングシステムの理解

7  
STEP



## tvOS 12 へのアップグレード

Jamf Nation の調査では、回答者の 95% が Apple TV デバイスを各自の環境で利用しており、規約に準じて利用していると報告していることがわかりました。彼らはアダプター不要のワイヤレス共有を有効にしており、最新の会議室体験を実感できます。Apple TV はデジタルサイネージ、ウェイファインディング、サービス業などの特定の産業にも最適です。しかし最近まで、大規模なセットアップと管理が簡単になるというわけではありませんでした。tvOS 10.2 によって全てが変わり、現在の tvOS 12 では組織が Apple TV 体験をしっかりと管理できます。

ここからは、tvOS 12 へのアップグレードの準備作業として検討すべき分野について説明します。

### ソフトウェアアップデートのインストール

遠隔操作でソフトウェアアップデートをインストールし、すべての Apple TV デバイスで最新バージョンの tvOS が実行されていることを確認してください。

## App Store アプリのインストール

まずは、App Store からアプリを購入し、MDM を搭載した Apple TV デバイスに直接、遠隔操作で導入してください。

### パスワード制限

AutoFill パスワードの制限、近接設定に基づくパスワード共有要求の阻止、AirDrop 経由でのパスワード共有の禁止が可能になります。

## Apple TV、iPad、iPhone 向け AirPlay

新しい管理機能に加え、各 Apple TV デバイスに特定のパスワードを定義し、そのパスワードを特定の iOS デバイスと自動で共有することで、Apple TV 向け AirPlay のセキュリティを強化できます。これにより、プライベートデータを誤って別のルームと共有してしまうというミスを防げます。組織は準備作業として、既存の環境内で各 iOS デバイスとペアリングさせる Apple TV デバイスを大まかに想定しておくことができます。

アップグレード前に、新しいオペレーティングシステムを深く理解し、エンドユーザーへの予測される影響について慎重に計画および吟味しておく、混乱やヘルプデスクへの問い合わせ、エンドユーザーからの苦情を最小限に抑えることができます。次に、以下の利害関係者を考慮し、アップグレード前の対話を検討します。

#### 情報セキュリティのループ

Apple がリリースしたコンシューマー機能には、情報セキュリティ チームから使用許可を得ていないものが含まれている可能性があります。MDM 仕様がアップデートされてこれらの機能が無効になるのはこのためです。情報セキュリティチームと協力して、どの機能があなたの組織に適しているかを話し合ってください。試験計画を策定し、情報セキュリティチームにこれらの新機能を連絡します。Apple のベータに参加することで(お使いのデバイス管理ソリューションがベータに対応している場合)、管理デバイスのエンドユーザーが 情報セキュリティチームに関係した機能を利用できるようになる前に、それらの機能を先制してブロックできます。

#### 準備段階のエンドユーザー向けの手順

**1** Mac のアップグレードにかかる時間を認識していないエンドユーザーもいます。平均アップグレード時間をユーザーに知らせ、アップグレードに最適な時間帯にヒントを提供してください。

**2** エンドユーザーに対して、アップデート開始前にデバイスのバックアップを取っておくことを勧めます。ローカライズされたバックアップや iCloud バックアップが該当します。

\* macOS 向け Code42 などの集中型バックアップツールを使用する場合は、アップグレード実行前のバックアップ実施を示すポリシーの送信を検討してください。

**3** エンドユーザーに 30 日以内のアップデートを義務付けるポリシーを実行するか、またはエンドユーザーにあなたがアップデートを実行することを知らせます。PCIDSS の順守には 30 日間が必要です。

アップグレードに関しては、念には念を入れて連絡する必要があります。OS アップグレード前に、電子メール、あなたの会社のイントラネット、または、デバイス管理ソリューションにより許容される場合は Jamf Self Service アプリカタログを使って、ユーザーに十分な量の警告事項と推奨事項を提供してください。ユーザーには感謝されるはずですが(あるいは、すべてがうまくいけばユーザーは何も言いません)。

# アップグレード連絡計画





## 前進して獲得する

Apple の今回の新オペレーティングシステム、macOS Mojave、iOS 12、tvOS 12 には、どの組織にとっても画期的となる機能が搭載されています。

Apple アップグレードに対する合理的アプローチにより、確実にセキュリティ対策を満たし、正確なシステムインベントリを維持し、ダウンタイムを取り除きます。専用の Apple エコシステム管理ソリューションは必要なツールを取り揃えており、エンドユーザーに悪影響を及ぼすことなく、また IT 担当者に大きな重圧を与えることなく、最新の Apple OS を利用できます。

Jamf は、組織の皆様が Apple で成功を収められるように全力で支援いたします。新しい Apple テクノロジーが公開されると組織の皆様がそれを十分に活用していただけるように、当社は 10 年以上に渡ってすべての Apple リリースに対して即日サポートを提供しています。

詳細